

「産業DXのためのデジタルインフラ整備事業/
人・ロボット・システムを有機的に結合するスマートビル基盤に関する研究開発」に係る実施予定先一覧

実施予定先	案件名
清水建設株式会社 scheme verge株式会社	人の行動履歴等、人流データ活用によるスマートビルを中心としたにぎわい創出 および地域の活動意欲活性化検証事業
公立大学法人大阪	協調領域の開放により多様なサービスを創出可能なスマートビルOSの開発
株式会社アンドパッド	既築中小規模ビル向けビルOSに関する研究開発プロジェクト
学校法人立命館	新サービス創出が実現できるデータ連携基盤の構築
鹿島建設株式会社	ビルOSによるビル内サービスロボットの有効活用と外部システム連携の実証

人の行動履歴等、人流データ活用によるスマートビルを中心としたにぎわい創出 および地域の活動意欲活性化検証事業

清水建設株式会社、scheme verge株式会社

事業概要

- 新築・中小規模のビルを題材とし、複合ビル内外の人流データと周辺地域情報の活用により、スマートビル内外の商業施設の利用促進と地域活性化を目指す。
- 清水建設のビルOSとscheme vergeの人流解析プラットフォームを連携し、解析結果に基づいたターゲティング情報を、ビルアプリや街アプリ経由でリアルタイムに提供。商業施設の利用促進状況を評価・検証する。

事業イメージ

課題感・ポストコロナの経済情勢において地域経済の回復鈍化
・オフィス需要が減少している

子どもたちに誇れるしごとを。

SHIMIZU CORPORATION
清水建設

- ・建物内施設利用データ蓄積
- ・行動履歴データ蓄積
- ・ビルアプリで情報提供



s c h e m e v e r g e
the next generation urban developer without land acquisition



- ・人流データ蓄積・解析
- ・街アプリで情報提供

人流解析プラットフォーム

データ活用による地域活性化

商業施設の売上増、ビルOS導入ビルや周辺地域の賑わい創出、
テナントの離脱防止、不動産価値の向上

協調領域の開放により多様なサービスを創出可能なスマートビルOSの開発

公立大学法人大阪

事業概要

- 協調領域を広く開放することでビルの管理運用にとどまらないデータドリブンな新しいサービス・アプリケーション創出の促進を目指すビルOSを開発する。
- 協調領域の開放に必須となる適切なアクセス制御を含むセキュリティガバナンス機構を具備する。
- 既存ビルOSとの共存を可能とすることで協調領域・競争領域の両立を実現する。
- 大学施設を対象としたビルOSのサンドボックス環境を用いた実践的教育を通じ、ビルOS人材の育成を目指す。
- 実証のビル分類：「新築・中小規模」、ユースケース：「省エネ最適化」「空調最適制御」「自立走行ロボット」。

事業イメージ



既築中小規模ビル向けビルOSに関する研究開発プロジェクト

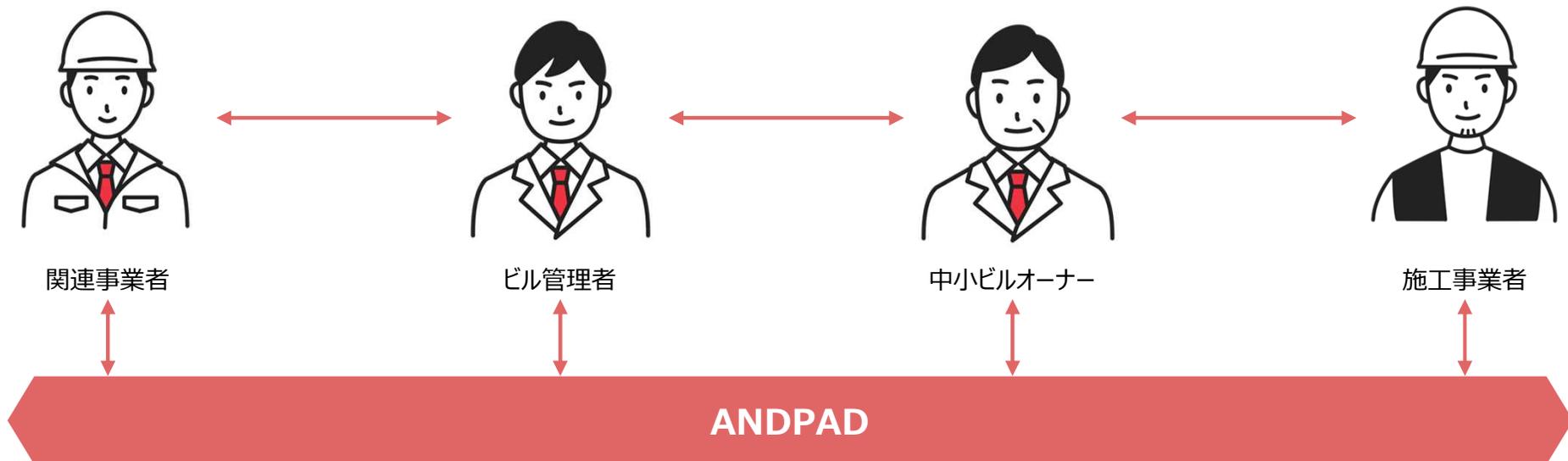
株式会社アンドパッド

事業概要

- アンドパッド社が開発・提供するクラウド型建設プロジェクト管理サービス「ANDPAD」を拡張し、既築・中小規模のビルのオーナーに対し、より詳細なデータ管理・効率的な維持管理等を実現させるビルOS・データ連携基盤の開発を行うと共に、他社サービスとの相互連携を実現する。
- 点検・改装・修繕に関わる計画の可視化による、管理棟数の向上とこれに伴う人件費の削減等を実現していく。

事業イメージ

ANDPADを介したビル維持管理を実現



新サービス創出が実現できるデータ連携基盤の構築

学校法人立命館

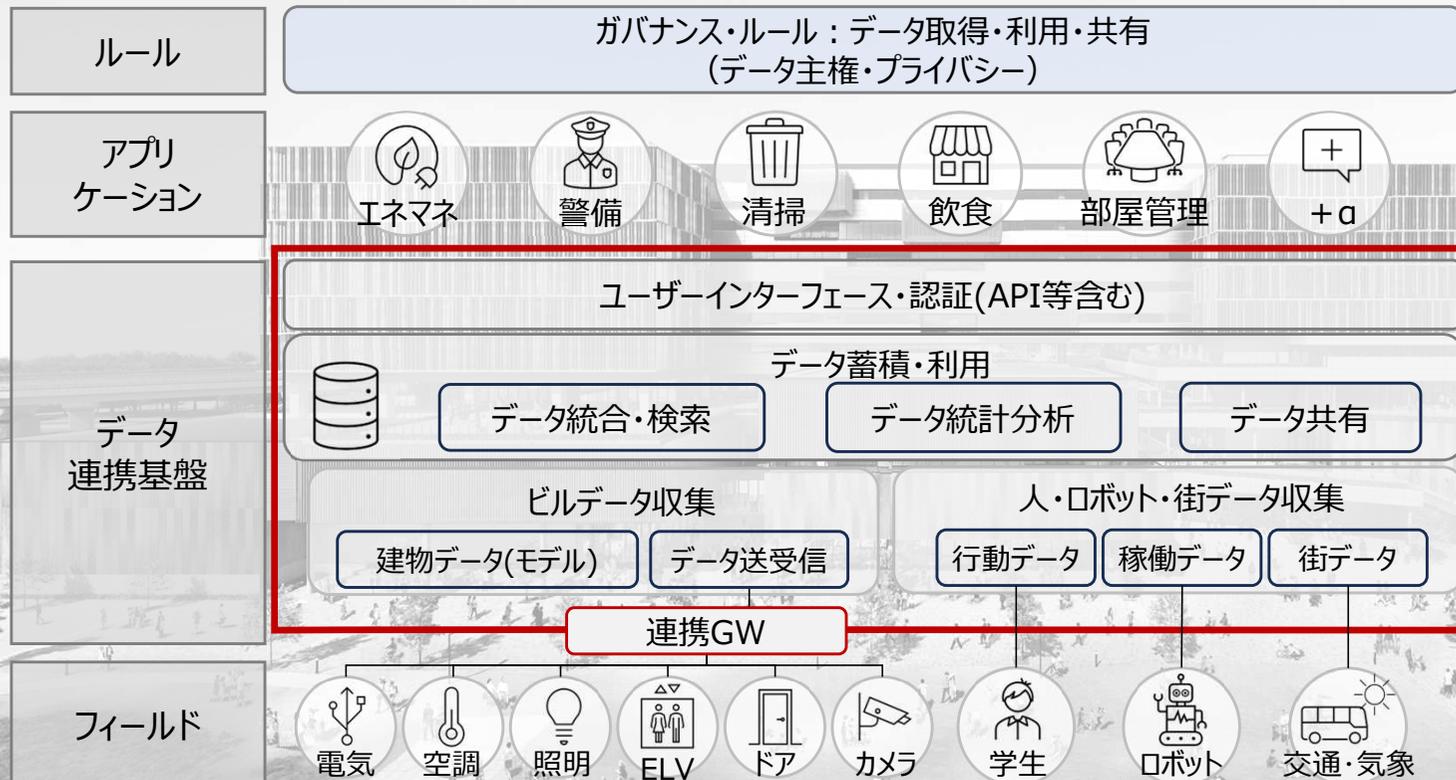
事業概要

- 学生、企業、自治体・地域住民など多様な人が行き交う立命館大学 大阪いばらきキャンパス(OIC)をリビングラボとして活用し、BIM等から抽出されるビル情報やフィールド層の機器、サービスロボット、利用者に識別子(ID)が定義されるデジタルインフラを整備する。その上で、新サービス創出を実現しようとする異なる運用者間でデータを共有・更新できるデータ連携基盤を構築する。
- 多くの事業者によるデータ利活用を前提として、個人情報を含むデータの取り扱いやその共有範囲・粒度に関するガバナンスのあり方やルールについての検討を行う。
- 新築棟に本基盤を整備し代表的なビル管理業務(清掃等)に適用することによってその効率化を評価する。

事業イメージ

立命館大学 大阪いばらきキャンパスは「塀のないキャンパス」として2015年に開設、2024年4月には新棟が供用開始。キャンパス規模は1万人を超え、教育・研究、ビル管理、防災など多様な視点での検証が可能となる。

ビルに係るデータ連携基盤の全体イメージ



本事業の特長

- スマートビルの運営・利活用の標準ルール策定を前提
- 企業・自治体との連携を推進し、社会課題の抽出導入および解決手法発見
- オープンイノベーションを志向したスマートビル接続可能機器の実証フィールド
- 新サービス(スタートアップ)輩出
- 1万人超+αのデータエビデンス

ビルOSによるビル内サービスロボットの有効活用と外部システム連携の実証

鹿島建設株式会社

事業概要

- 「スマートビルガイドライン」に則った協調領域を有するビルOSを既築・大規模ビルに導入し、ビルオーナー・テナント・ビル管理者等の生産性や体験価値を向上させるサービスロボットの環境適合システム、エネルギーレポート作成システム、エレベーター制御運行最適化システムおよび可視化プラットフォームと連携させる研究を実証的に実施する。

事業イメージ

